

2.3 鳥類調査

2.3.1 調査の概要

鳥類調査は表 2.3.1 に示す日程で実施した。

表 2.3.1 鳥類調査の実施日

春季	平成 27 年 5 月 18 日
夏季	平成 27 年 8 月 28 日
秋季	平成 27 年 9 月 28 日
冬季	平成 28 年 1 月 26 日

2.3.2 種類数及び個体数

鳥類の確認種及び個体数一覧を表 2.3.2 に、確認位置を図 2.3.1 に示す。

鳥類の各季の確認種類数は、春季が 26 種、夏季が 33 種、秋季が 35 種、冬季が 46 種であった。渡りの区分をみると、留鳥が 30 種と最も多く、次いで冬鳥が 21 種、夏鳥が 5 種、旅鳥が 4 種、家禽類が 1 種となっており、越冬のために飛来する冬鳥が多いことから、冬季の確認種類数が多かった。

確認個体数は、カルガモ、ホシハジロ、カワウ、ユリカモメ、ウミネコ、カモメ及びハシボソガラスが多かった。このうち、カワウ及びハシボソガラスは四季をとおして多く確認され、ウミネコは夏季、秋季及び冬季に、カルガモは秋季及び冬季に、ホシハジロ、ユリカモメ及びカモメは冬季に多くの個体を確認された。

なお、本業務では、鳥類の種の配列は、「日本鳥類目録 改訂第 7 版」（日本鳥学会、2012）に準じて整理したため、過年度の報告書と比較する場合は、目・科の分類が異なることに注意が必要である。

表 2.3.2 鳥類の確認種及び個体数一覧

単位：個体数（個体）															注6	
No.	目	科	種名	注1 渡りの区分	確認状況					注2 天然	注3 希少	注4 環境省 RL	注5 三重県 RDB	近畿RDB		
					春季	夏季	秋季	冬季	合計							
1	カモ目	カモ科	ヒドリガモ	冬鳥				5	5							
2			マガモ	冬鳥				34	34							
3			カルガモ	留鳥	3	2	49	83	137							
4			オナガガモ	冬鳥				62	62							
5			コガモ	冬鳥				22	22							
6			ホシハジロ	冬鳥	4	1	2	145	152							
7			キンクロハジロ	冬鳥	2		1	15	18							
8			スズガモ	冬鳥		2		3	5							
9			ウミアイサ	冬鳥				2	2							
10	カイツブリ目	カイツブリ科	カシムリカイツブリ	冬鳥				12	12							
11			ハジロカイツブリ	冬鳥				1	1							
12	ハト目	ハト科	キジバト	留鳥	4	2	2	2	10							
13	カツオドリ目	ウ科	カワウ	留鳥	25	44	36	24	129							
14	ペリカン目	サギ科	ササゴイ	夏鳥		1	2		3				VU	ランク3（繁殖個体群）		
15			アオサギ	留鳥		7	5	4	16							
16			ダイサギ	留鳥	4	19	15		38							
17			チュウサギ	留鳥			4		4			NT	VU	ランク1（夏期滞在個体群）		
18			コサギ	留鳥		9	18	4	31							
19			イカルチドリ	留鳥				2	2				VU			
20			コチドリ	夏鳥	2				2				NT	ランク3（繁殖個体群）		
21			シロチドリ	留鳥	10	1	1	5	17			VU	CR〔繁殖〕 NT〔越冬〕	ランク3（繁殖+越冬個体群）		
22		ミヤコドリ科	ミヤコドリ	冬鳥				7	7				NT			
23	シギ科		タシギ	冬鳥				1	1					ランク3（越冬個体群）		
24			チュウシャクシギ	旅鳥	6				6							
25			キアシシギ	旅鳥	19	6			25							
26			ソリハシシギ	旅鳥		3	2		5							
27			イソシギ	留鳥	3	5	4	5	17							
28			トウネン	旅鳥		3	3		6					ランク3（通過個体群）		
29		カモメ科	ユリカモメ	冬鳥		1	54	556	611							
30			ウミネコ	留鳥		735	1948	329	3012					要注目種（繁殖個体群）注7		
31			カモメ	冬鳥				166	166							
32			セグロカモメ	冬鳥		2	13	14	29							
33			コアジサシ	夏鳥	5				5		II	VU	CR	ランク2（繁殖個体群）		
34	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	留鳥		2	2	4	8			NT	CR〔繁殖〕 VU〔越冬〕	ランク3（繁殖+越冬個体群）		
35		タカ科	トビ	留鳥		1	1		2							
36	ブッポウソウ目	カウセミ科	カウセミ	留鳥	1		1	3	5							
37	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	留鳥		1		1	2		I	VU	CR〔繁殖〕 EN〔越冬〕			
38	スズメ目	モズ科	モズ	留鳥			2	2	4							
39		カラス科	ハシボソガラス	留鳥	30	26	32	28	116							
40			ハシブトガラス	留鳥	9	2	1	2	14							
41		ヒバリ科	ヒバリ	留鳥	4	1	1	4	10							
42		ツバメ科	ツバメ	夏鳥	6	1			7							
43		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	2		32	8	42							
44		メジロ科	メジロ	留鳥				4	4							
45		ヨシキリ科	オオヨシキリ	夏鳥		1			1					ランク3（繁殖個体群）		
46		セッカ科	セッカ	留鳥	1	1	1		3					ランク3（繁殖+越冬個体群）		
47		ムクドリ科	ムクドリ	留鳥	1	1	4	7	13							
48		ヒタキ科	アカハラ	冬鳥				1	1							
49			ツグミ	冬鳥				6	6							
50			ジョウビタキ	冬鳥				1	1							
51			イゾヒヨドリ	留鳥		2	2	1	5							
52		スズメ科	スズメ	留鳥	12	4	14	7	37							
53		セキレイ科	キセキレイ	留鳥	1		1		2							
54			ハクセキレイ	留鳥	4	15	6	6	31							
55			セグロセキレイ	留鳥		2	1	2	5							
56		アトリ科	カワラヒワ	留鳥	3	7	2	3	15							
57			ベニマシコ	冬鳥				1	1					ランク3（越冬個体群）		
58		ホオジロ科	ホオジロ	留鳥	2	1	1	3	7							
59			アオジ	冬鳥				2	2							
60			オオジュリン	冬鳥				4	4							
61	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)	家禽類	6		2		8							
10目					27科	61種	26種	33種	35種	46種	61種	0種	2種	5種	9種	12種

- 注1. 渡りの区分は以下のとおりである
(渡りの区分は「三重県における鳥類分布・生態に関する調査報告書(農林水産部林業事務局緑化推進課, 1987年3月)」を参考に、近年の県内での確認状況を考慮して区分した)
留鳥：一年中見ることが出来る種----- 30 種
夏鳥：繁殖のために渡来する種----- 5 種
冬鳥：越冬のために渡来する種----- 21 種
旅鳥：春秋の渡り期に定期的に渡来する種----- 4 種
家禽類：飼鳥が逃げ出して野生化した種----- 1 種
- 注2. 「文化財保護法」(1950年5月30日法律第214号・1950年4月施行)により地域を定めて天然記念物に選定されている種及び亜種を示す。
- 注3. 「絶滅のおそれのある野生動物種の保存に関する法律」(1992年6月5日法律第75号・1993年4月施行)において希少野生動物種に指定されている種及び亜種を示す。
I：国内希少野生動物種
II：国際希少野生動物種
- 注4. 「環境省レッドリスト2015の公表について」(環境省報道発表資料, 2015年9月15日)に記載されている種及び亜種を示す。
VU：絶滅危惧II類
NT：準絶滅危惧
- 注5. 「三重県レッドデータブック2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～」(三重県農林水産部みどり共生推進課, 2015年3月)に記載されている種及び亜種を示す。
CR：絶滅危惧IA類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種。
EN：絶滅危惧IB類：IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種。
VU：絶滅危惧種VI：絶滅の危機が増大している種。
NT：準絶滅危惧種 (Near Threatened)：存続基盤が脆弱な種。
- 注6. 「近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発(京都市大学学術出版会、山岸哲監修、江崎保男・和田岳編著, 2002年)」に記載されている種を示す。
(記載種のうち、三重県におけるランク3以上の種、およびランク4に含まれる要注目種を示した)
ランク1：危機的絶滅危惧。絶滅する可能性が極めて大きい。
ランク2：絶滅危惧。絶滅する可能性が大きい。
ランク3：準絶滅危惧。絶滅する可能性がある。
要注目種：要注目種：ランク4と判定された種のうち、何らかの攪乱によって一気に絶滅する可能性がある、あるいは全国・世界レベルで絶滅の危険性があるとみなされているもの。
- 注7. 三重県においては「越冬個体群(ランク4)」とされている。

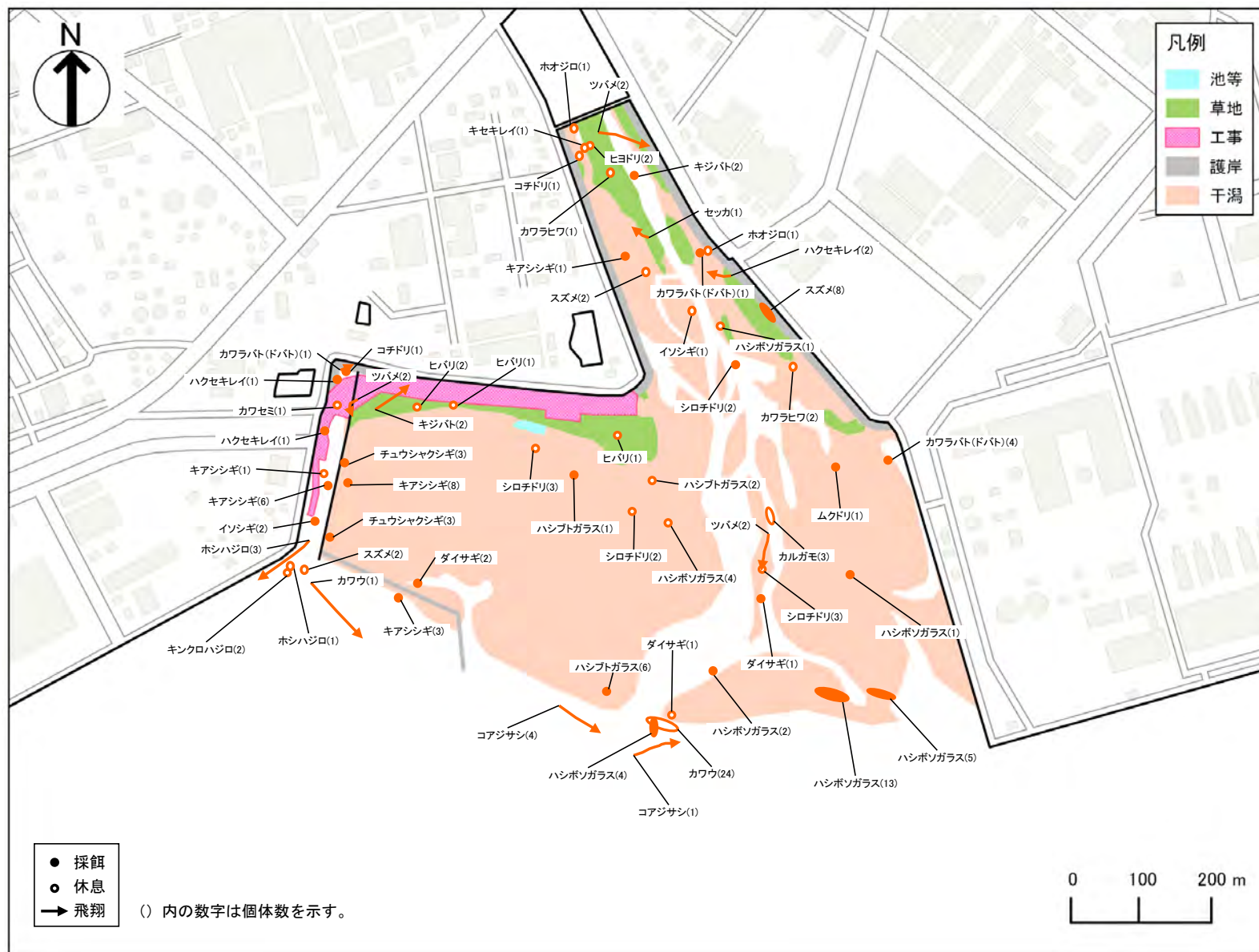


図 2.3.1(1) 鳥類確認位置 (春季)

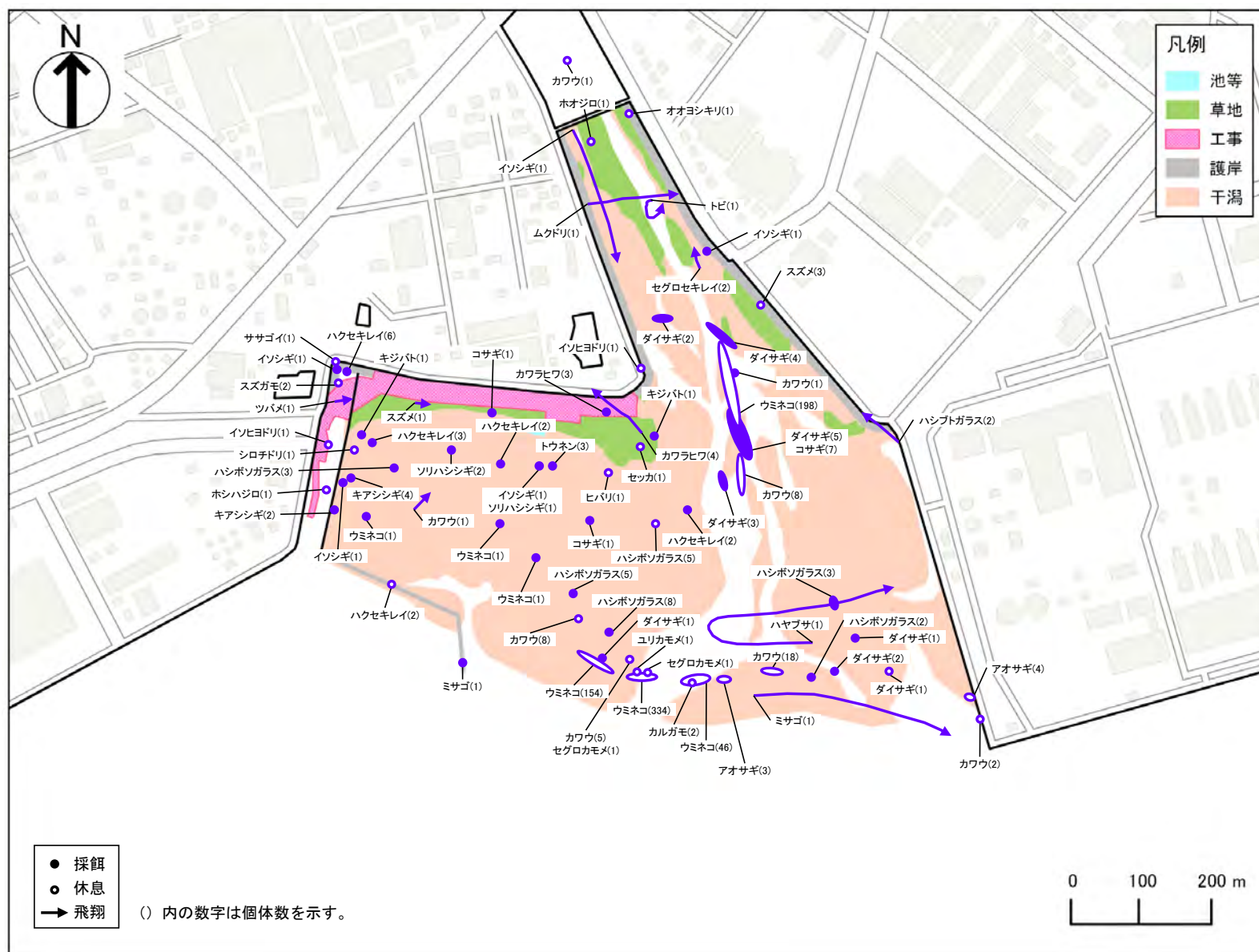


図 2.3.1(2) 鳥類確認位置 (夏季)

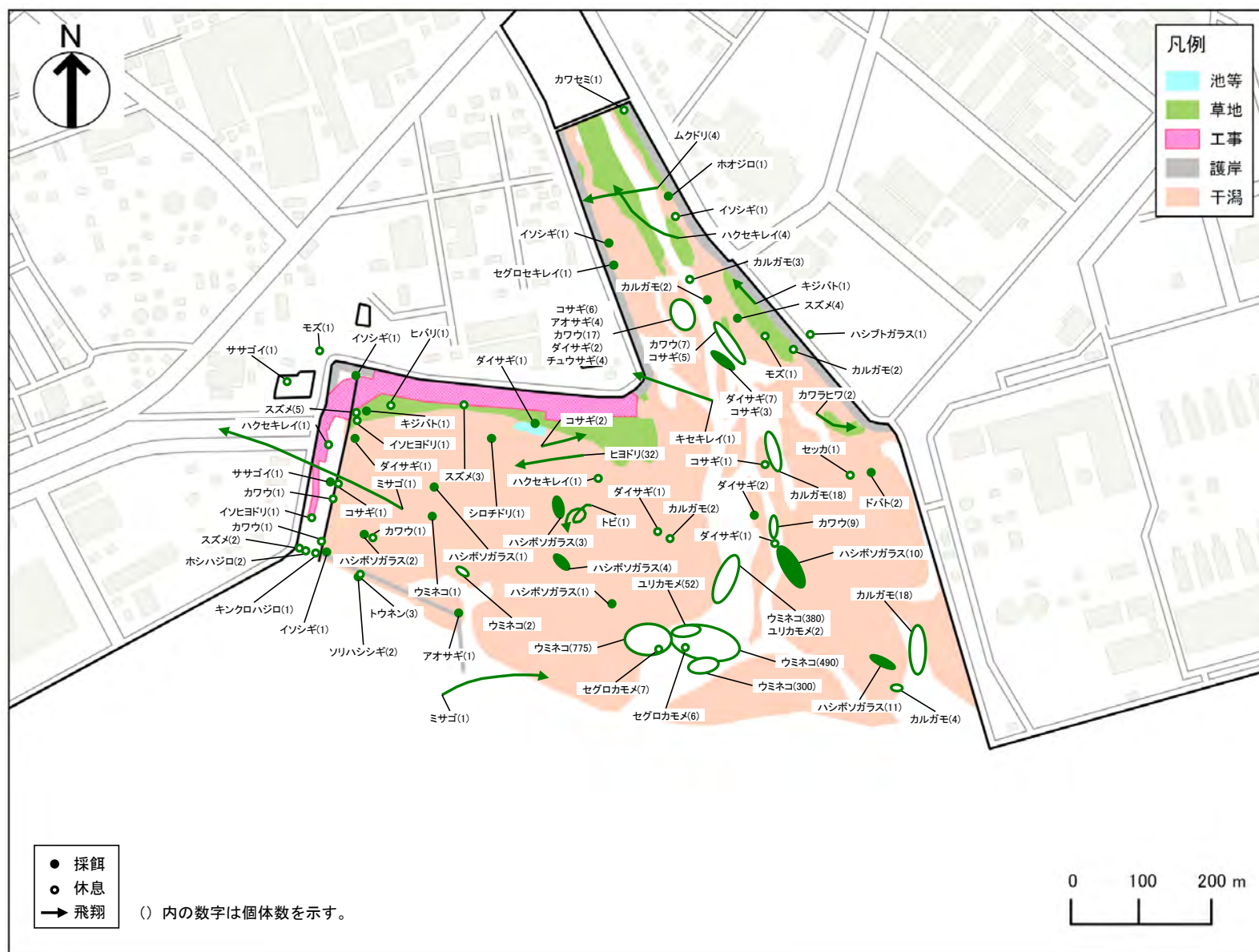


図 2.3.1(3) 鳥類確認位置 (秋季)

2.3.3 出現状況

鳥類の目別種類数及び個体数を表 2.3.3 及び図 2.3.2 に示す。

季節ごとの出現状況は、春季は 26 種 169 個体、夏季は 33 種 911 個体、秋季は 35 種 2,265 個体、冬季は 46 種 1,603 個体であり、種類数は冬季に、個体数は秋季に最も多く確認された。

目別の種類数は、四季をとおしてスズメ目が多く確認された（春季 12 種、夏季 13 種、秋季 14 種、冬季 19 種）。目別の個体数は、春季はスズメ目（75 個体）、夏季、秋季及び冬季はチドリ目カモメ科（夏季 738 個体、秋季 2,015 個体、冬季 1,065 個体）が多く確認された。なお、春季のスズメ目はカラス科のハシボソガラス、夏季及び秋季のチドリ目カモメ科はウミネコ、冬季のチドリ目カモメ科はユリカモメの個体数が多かった。

表 2.3.3 鳥類の目別種類数及び個体数

分類名	季節	春季		夏季		秋季		冬季	
		種類数	個体数	種類数	個体数	種類数	個体数	種類数	個体数
カモ目		3	9	3	5	3	52	9	371
カイツブリ目		0	0	0	0	0	0	2	13
ハト目		2	10	1	2	2	4	1	2
カツオドリ目		1	25	1	44	1	36	1	24
ペリカン目		1	4	4	36	5	44	2	8
チドリ目チドリ科		2	12	1	1	1	1	2	7
チドリ目シギ科		3	28	4	17	3	9	2	6
チドリ目カモメ科		1	5	3	738	3	2,015	4	1,065
チドリ目その他		0	0	0	0	0	0	1	7
タカ目		0	0	2	3	2	3	1	4
ブッポウソウ目		1	1	0	0	1	1	1	3
ハヤブサ目		0	0	1	1	0	0	1	1
スズメ目		12	75	13	64	14	100	19	92
合計		26	169	33	911	35	2,265	46	1,603

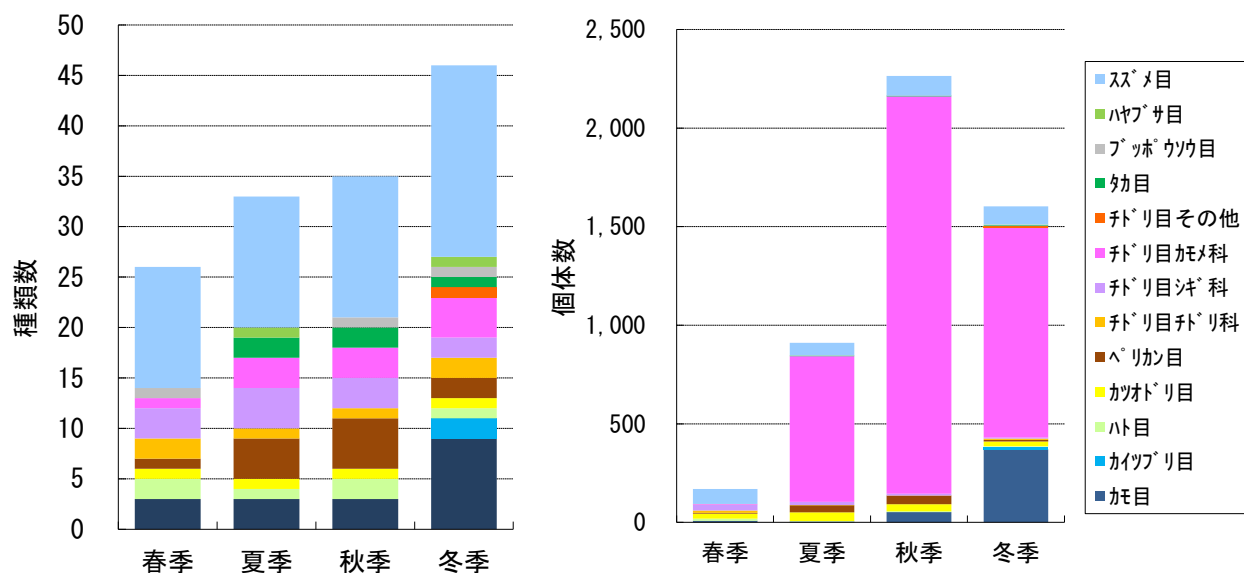


図 2.3.2 鳥類の目別種類数及び個体数

2.3.4 干潟部利用状況

干潟を利用する鳥類として、水辺に生息するカモ目、カイツブリ目、ペリカン目、チドリ目、スズメ目セキレイ科の種のほか、魚食性の猛禽類であるミサゴ、干潟を利用する多数のハシボソガラスが確認された。これらの種の干潟利用域を明らかにするため、過年度の報告書に従い、食性に着目したグルーピングを行い、表 2.3.4 に示す 8 つのグループに区分した。

各グループの出現状況を次頁以降に示す。

表 2.3.4 干潟部を利用する鳥類のグループ区分

No.	構成種等	主な食性	現地確認種 (H27)
1	カイツブリ類、 カワウ アジサシ類 ミサゴ	潜水や空中からのダイビングにより、主に魚を食べる。	・カンムリカイツブリ ・ハジロカイツブリ ・カワウ ・コアジサシ ・ミサゴ
2	サギ類	浅瀬で主に魚を食べる。 昆虫、エビ、カニ等広範。	・ササゴイ ・アオサギ ・ダイサギ ・チュウサギ ・コサギ
3	陸ガモ類	主に水草や藻、草の実や葉等を食べる。その他に水生昆虫、貝やエビ等。	・ヒドリガモ ・マガモ ・カルガモ ・オナガガモ ・コガモ
4	海ガモ類	潜水して貝類やカニ、水生昆虫、小魚、水草や藻等を食べる。	・ホシハジロ ・キンクロハジロ ・スズガモ ・ウミアイサ
5	シギ・チドリ類	ゴカイ、貝、カニ、水生昆虫等干潟の小動物を食べる。	・イカルチドリ ・コチドリ ・シロチドリ ・ミヤコドリ ・タシギ ・チュウシャクシギ ・キアシシギ ・ソリハシシギ ・イソシギ ・トウネン
6	カモメ類	魚類、カニ、エビ、貝、ゴカイ、草の実や海藻、死体等さまざまなものを食べる。	・ユリカモメ ・ウミネコ ・カモメ ・セグロカモメ
7	セキレイ類	カゲロウ、ハエ、ガ等の昆虫類やクモ、イトミミズ等を食べる。	・キセキレイ ・ハクセキレイ ・セグロセキレイ
8	ハシボソガラス	雑食。草木の実や昆虫類、小動物等を食べる。	・ハシボソガラス

1) カイツブリ類、カワウ、アジサシ類、ミサゴ

カイツブリ類、カワウ、アジサシ類、ミサゴは、朝明川河口部及び干潟汀線付近で多く確認された。

カンムリカイツブリは干潟汀線付近で休息していた。ハジロカイツブリは朝明川の中州で採餌していた。カワウは四季をとおして確認され、朝明川の河口及び中州で休息している個体が多くみられた。コアジサシは干潟汀線付近上空を飛翔していた。ミサゴは干潟上空を飛翔していた。

表 2.3.5 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H27年度）				
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	カンムリカイツブリ	冬鳥	0	0	0	12	12
2	ハジロカイツブリ	冬鳥	0	0	0	1	1
3	カワウ	留鳥	25	44	36	24	129
4	コアジサシ	夏鳥	5	0	0	0	5
5	ミサゴ	留鳥	0	2	2	4	8

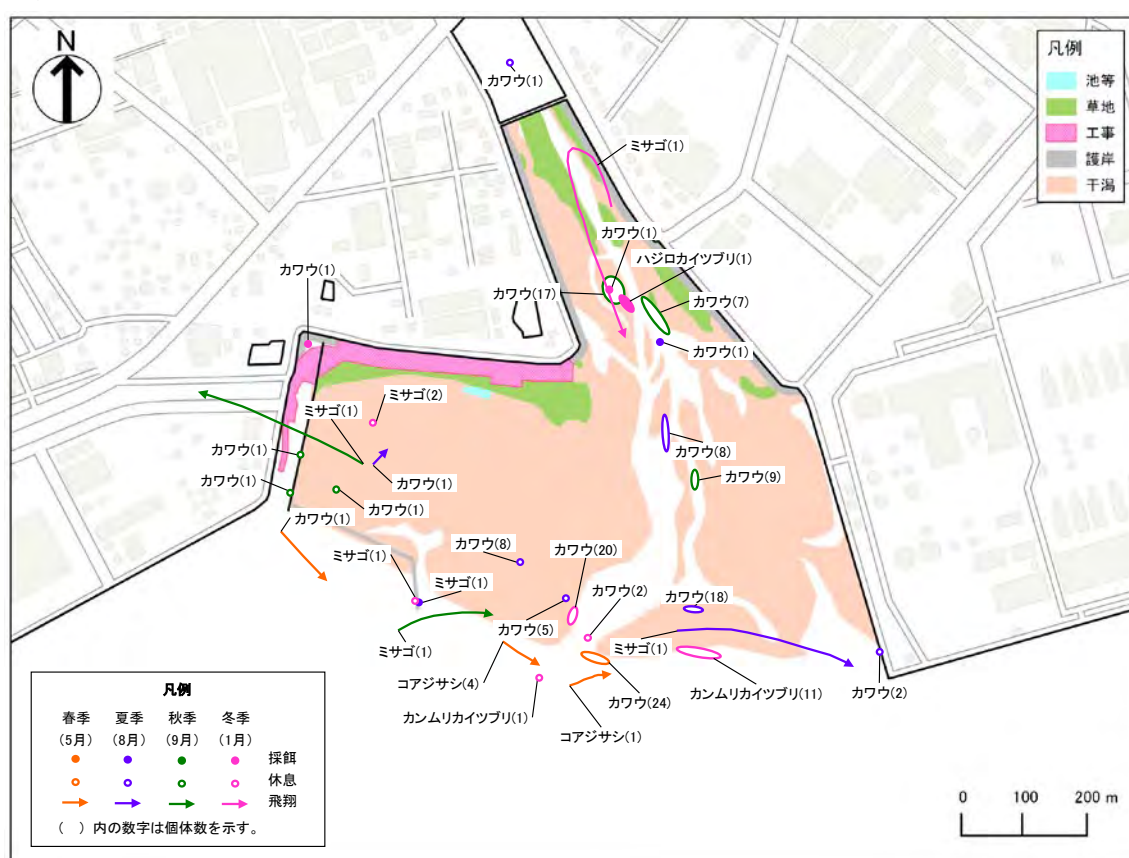
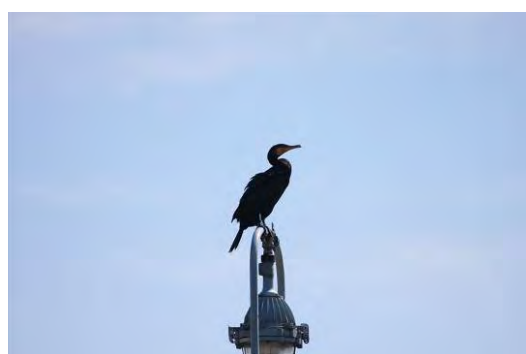
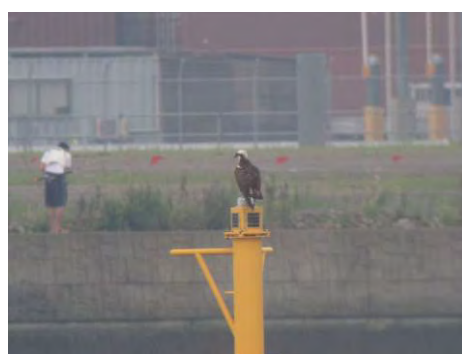


図 2.3.3 カイツブリ類、カワウ、アジサシ類、ミサゴの出現状況



カワウ（秋季）



ミサゴ（夏季）

2) サギ類

サギ類は朝明川の中州及び干潟部で多く確認された。

ササゴイは西側水路で採餌及び休息していた。アオサギは干潟汀線部及び朝明川の中州で確認された。ダイサギは四季をとおして確認され、特に朝明川の中州及び河口部で採餌及び休息する個体が多くみられた。チュウサギは秋季に朝明川の中州で休息していた。コサギは、特に朝明川の中州で採餌及び休息する個体が多くみられた。

表 2.3.6 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H27年度）				
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	ササゴイ	夏鳥	0	1	2	0	3
2	アオサギ	留鳥	0	7	5	4	16
3	ダイサギ	留鳥	4	19	15	0	38
4	チュウサギ	留鳥	0	0	4	0	4
5	コサギ	留鳥	0	9	18	4	31

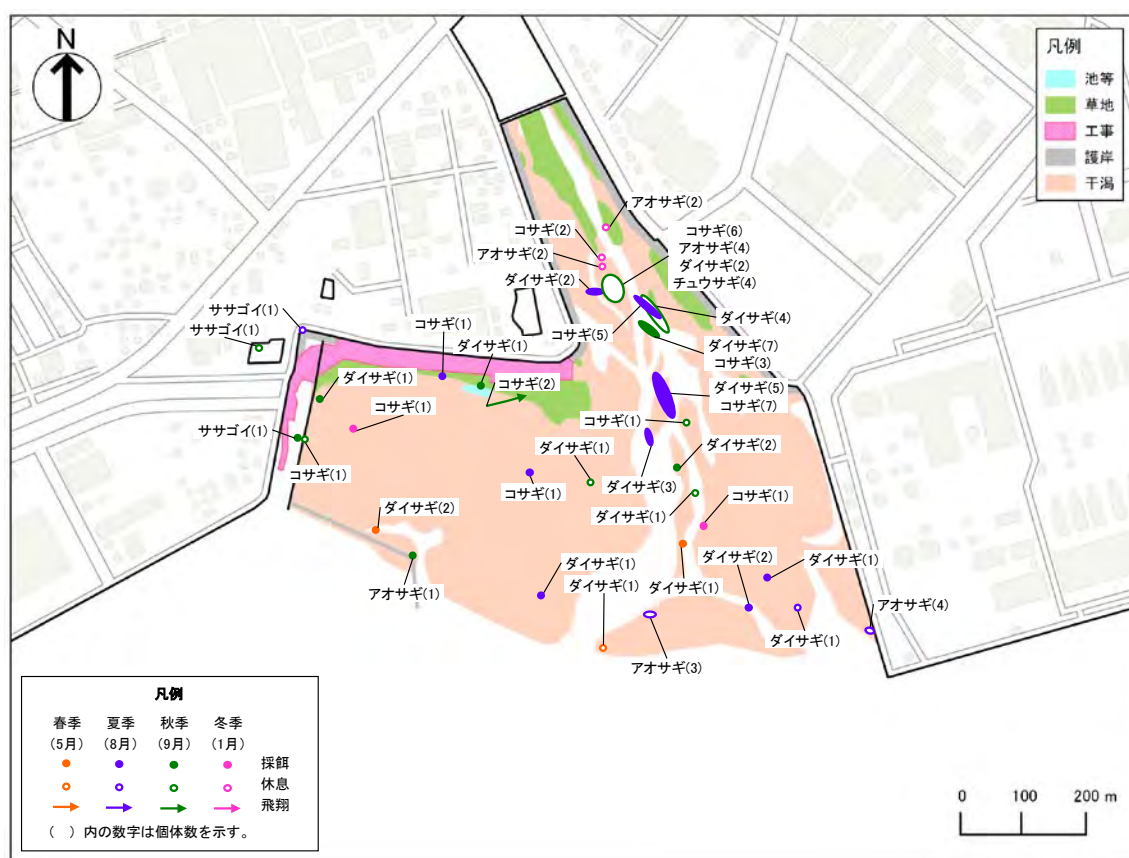


図 2.3.4 サギ類の出現状況



アオサギ（秋季）



ダイサギ（夏季）

3) 陸ガモ類

陸ガモ類は、カルガモが四季をとおして確認され、その他の種は冬季にのみ確認された。

ヒドリガモ及びコガモは、西側水路で採餌及び休息する個体を多く確認した。マガモ、カルガモ及びオナガガモは朝明川河口や中州で採餌及び休息している個体を多く確認した。

表 2.3.7 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H27年度）				
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	ヒドリガモ	冬鳥	0	0	0	5	5
2	マガモ	冬鳥	0	0	0	34	34
3	カルガモ	留鳥	3	2	49	83	137
4	オナガガモ	冬鳥	0	0	0	62	62
5	コガモ	冬鳥	0	0	0	22	22

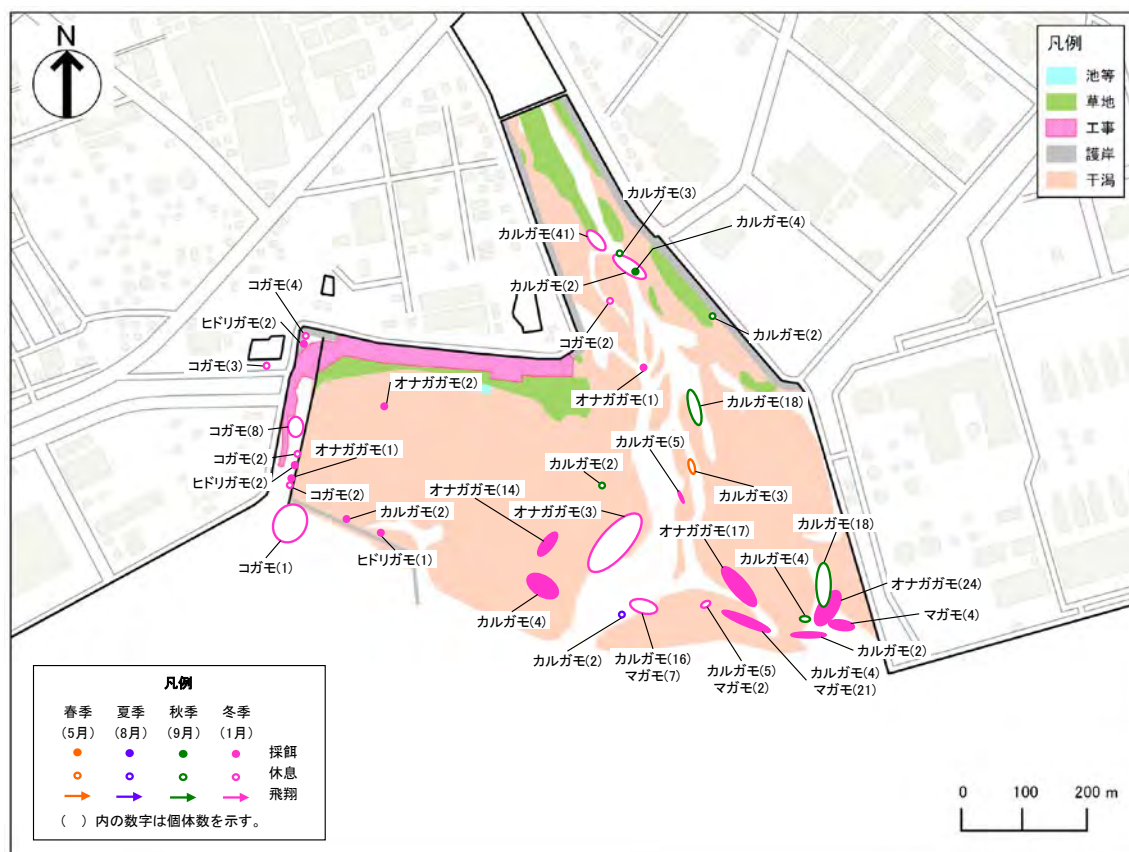


図 2.3.5 陸ガモ類の出現状況



ヒドリガモ（冬季）



カルガモ（秋季）

4) 海ガモ類

海ガモ類の多くの個体は、冬季に確認された。

ホシハジロ及びキンクロハジロは、朝明川の中州及び西側水路で採餌及び休息する個体を多く確認した。スズガモは、西側水路で休息していた。ウミアイサは、干潟部で休息していた。

表 2.3.8 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H27年度）				
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	ホシハジロ	冬鳥	4	1	2	145	152
2	キンクロハジロ	冬鳥	2	0	1	15	18
3	スズガモ	冬鳥	0	2	0	3	5
4	ウミアイサ	冬鳥	0	0	0	2	2

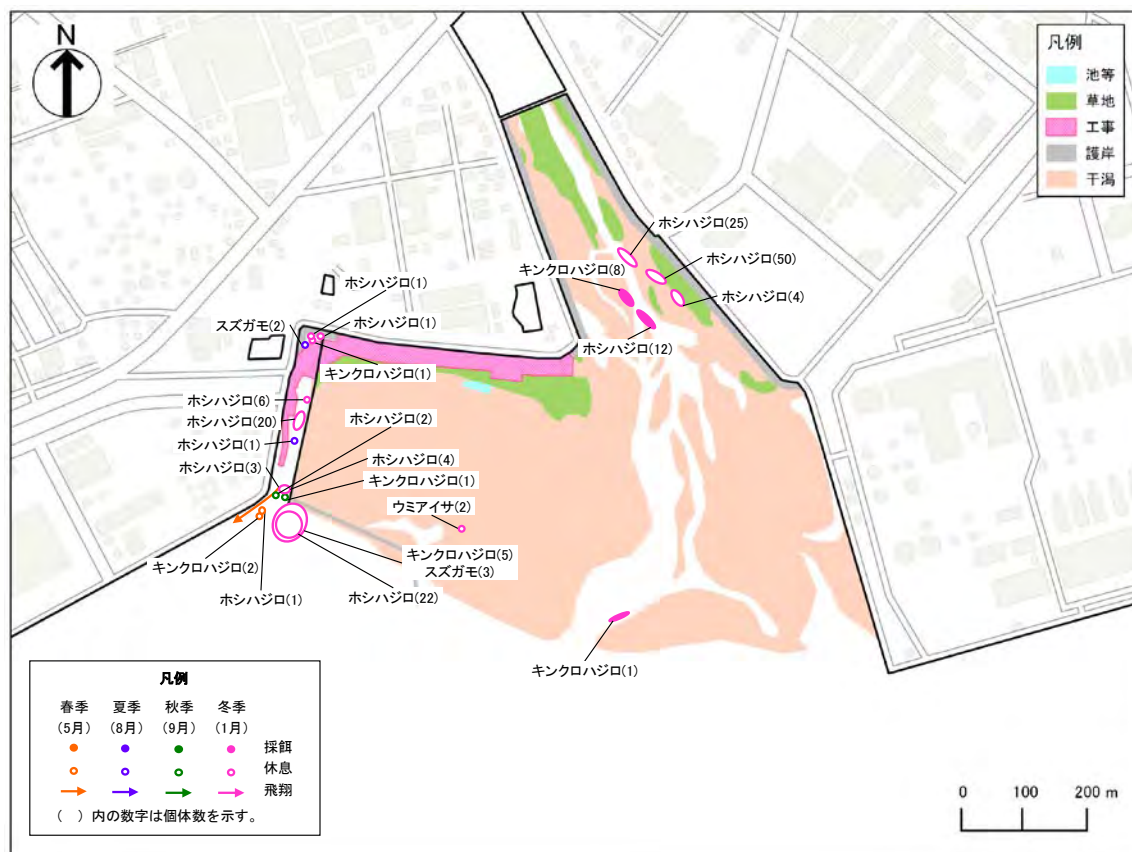
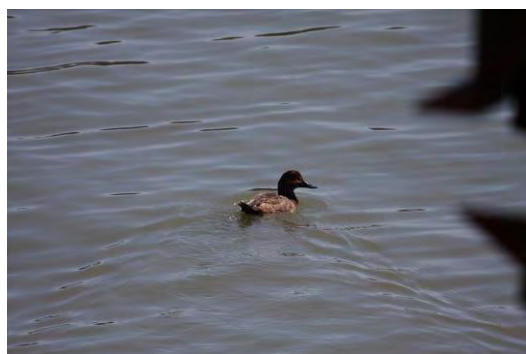


図 2.3.6 海ガモ類の出現状況



ホシハジロ（秋季）



キンクロハジロ（冬季）

5) シギ・チドリ類

シギ・チドリ類は朝明川の中州や朝明川河口西側の干潟部及び西側水路周辺で多く確認された。

イカルチドリ及びタシギは朝明川の中州で採餌していた。コチドリ、シロチドリ、キアシシギ及びイソシギは朝明川の中州及び西側水路で採餌及び休息していた。ミヤコドリは朝明川河口部及び干潟部で採餌していた。チュウシャクシギは西側水路で採餌していた。ソリハシシギ及びトウネンは干潟部及び防砂堤周辺で採餌及び休息していた。

表 2.3.9 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H27年度）				
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	イカルチドリ	留鳥	0	0	0	2	2
2	コチドリ	夏鳥	2	0	0	0	2
3	シロチドリ	留鳥	10	1	1	5	17
4	ミヤコドリ	冬鳥	0	0	0	7	7
5	タシギ	冬鳥	0	0	0	1	1
6	チュウシャクシギ	旅鳥	6	0	0	0	6
7	キアシシギ	旅鳥	19	6	0	0	25
8	ソリハシシギ	旅鳥	0	3	2	0	5
9	イソシギ	留鳥	3	5	4	5	17
10	トウネン	旅鳥	0	3	3	0	6

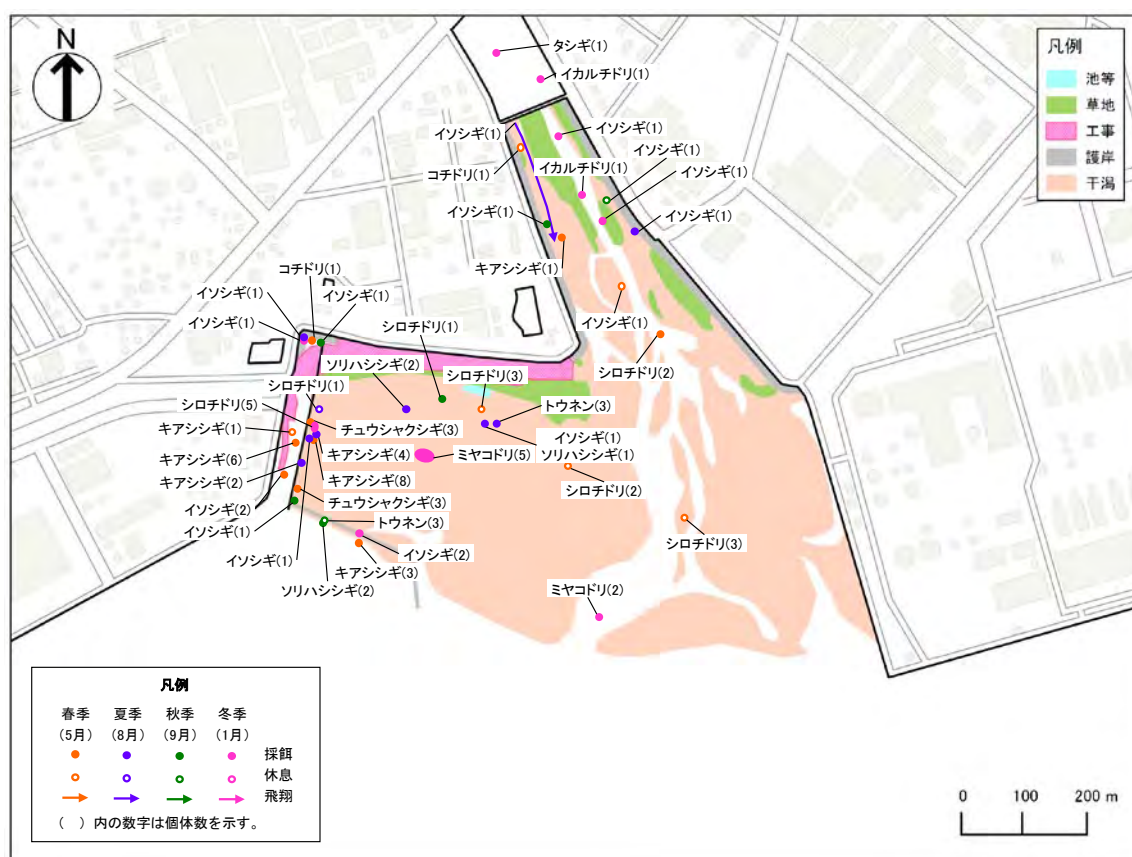


図 2.3.7 シギ・チドリ類の出現状況



チュウシャクシギ（秋季）



イソシギ（秋季）

6) カモメ類

カモメ類は、ユリカモメ、ウミネコ及びセグロカモメが夏季から冬季に、カモメは冬季にのみ確認された。

カモメ類は、朝明川河口部及び干潟部に広く分布して確認された。特に朝明川河口部の水面近くで休息している個体を多く確認した。

表 2.3.10 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H27年度）				
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	ユリカモメ	冬鳥	0	1	54	556	611
2	ウミネコ	留鳥	0	735	1948	329	3012
3	カモメ	冬鳥	0	0	0	166	166
4	セグロカモメ	冬鳥	0	2	13	14	29

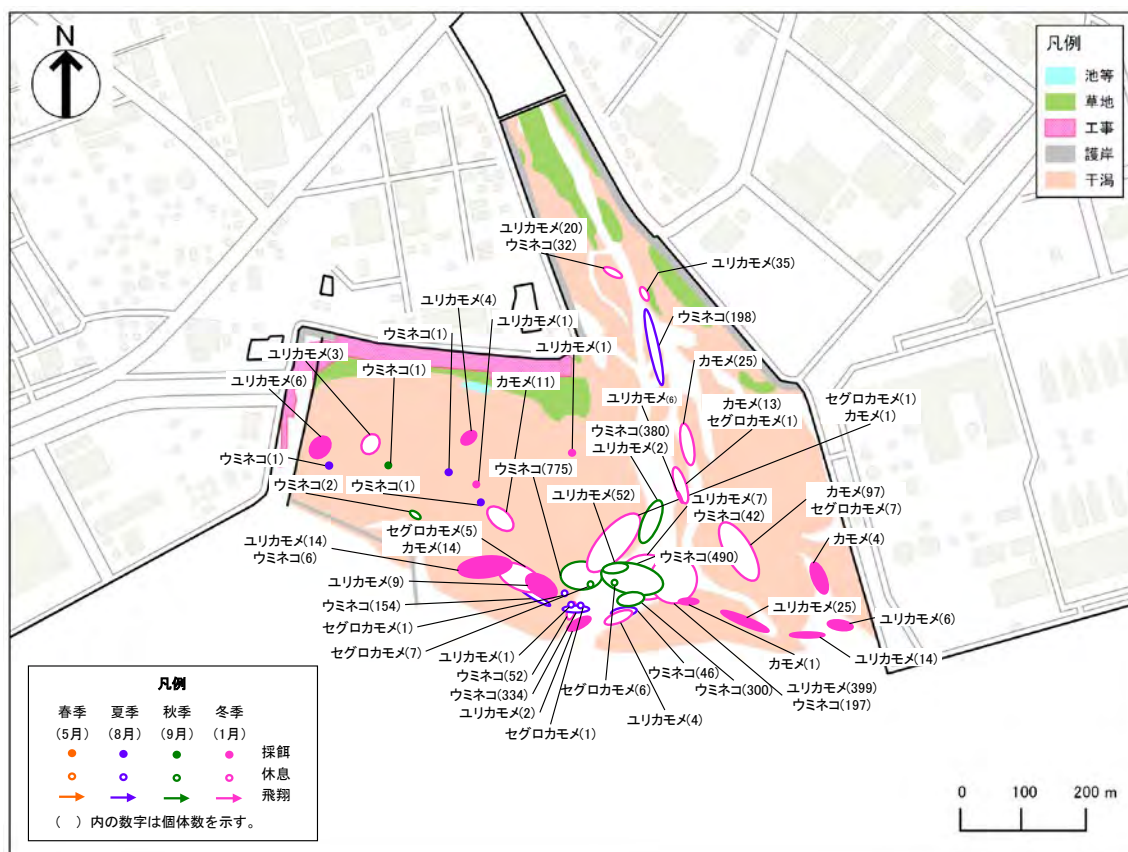
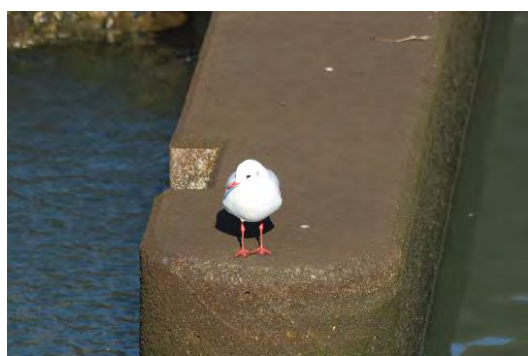


図 2.3.8 カモメ類の出現状況



ユリカモメ（冬季）



ウミネコ（夏季）

7) セキレイ類

セキレイ類は、キセキレイ、ハクセキレイ及びセグロセキレイの3種が確認され、キセキレイは春季及び秋季に、ハクセキレイは四季をとおして、セグロセキレイは夏季から冬季に確認された。

セキレイ類は朝明川の中州、朝明川西側干潟部、西側水路及び防砂堤周辺において、採餌及び休息する個体を確認した。

表 2.3.11 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H27年度）				
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	キセキレイ	留鳥	1	0	1	0	2
2	ハクセキレイ	留鳥	4	15	6	6	31
3	セグロセキレイ	留鳥	0	2	1	2	5

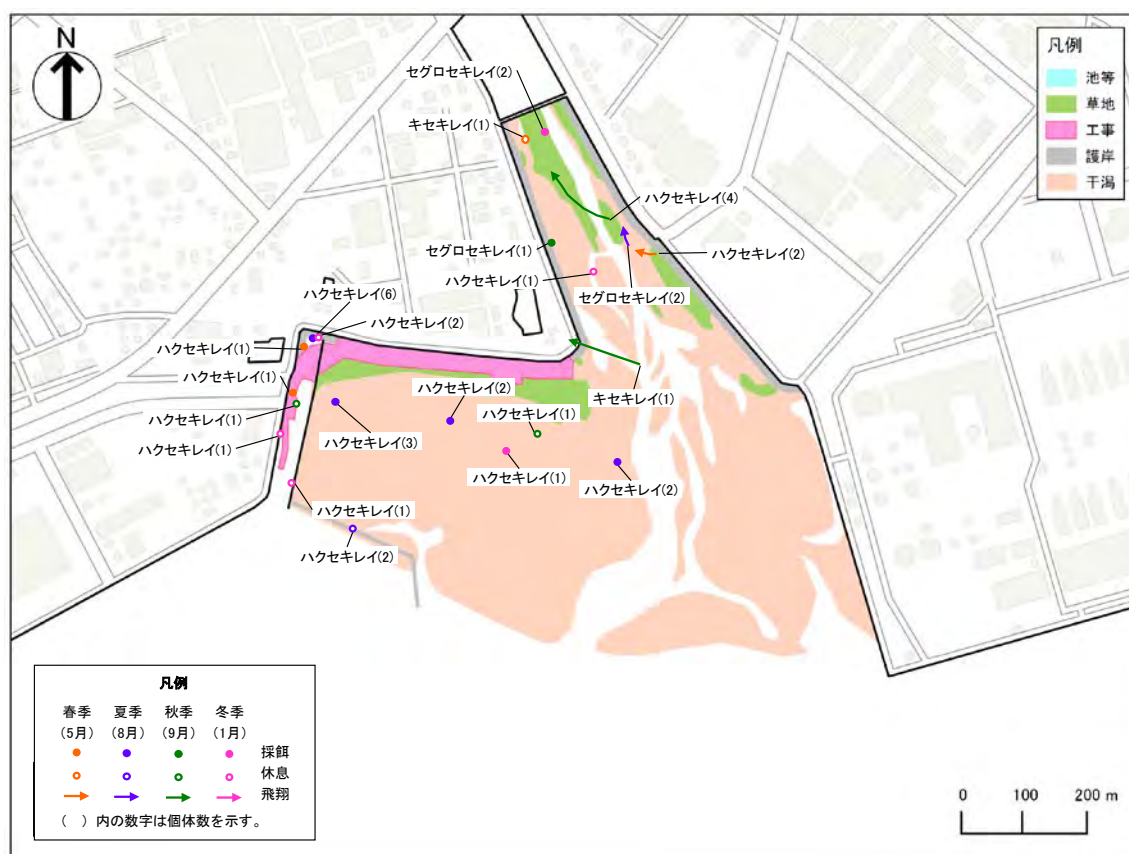


図 2.3.9 セキレイ類の出現状況



ハクセキレイ（夏季）



セグロセキレイ（冬季）

8) ハシボソガラス

ハシボソガラスは、四季をとおして確認された。

ハシボソガラスの多くの個体が干潟部に集まり、潮干狩りで掘り起こされた場所等で採餌していた。

表 2.3.12 季節別出現状況（個体数）

No.	種名	渡り区分	確認状況（H27年度）				
			春季 5月	夏季 8月	秋季 9月	冬季 1月	合計
1	ハシボソガラス	留鳥	30	26	32	28	116

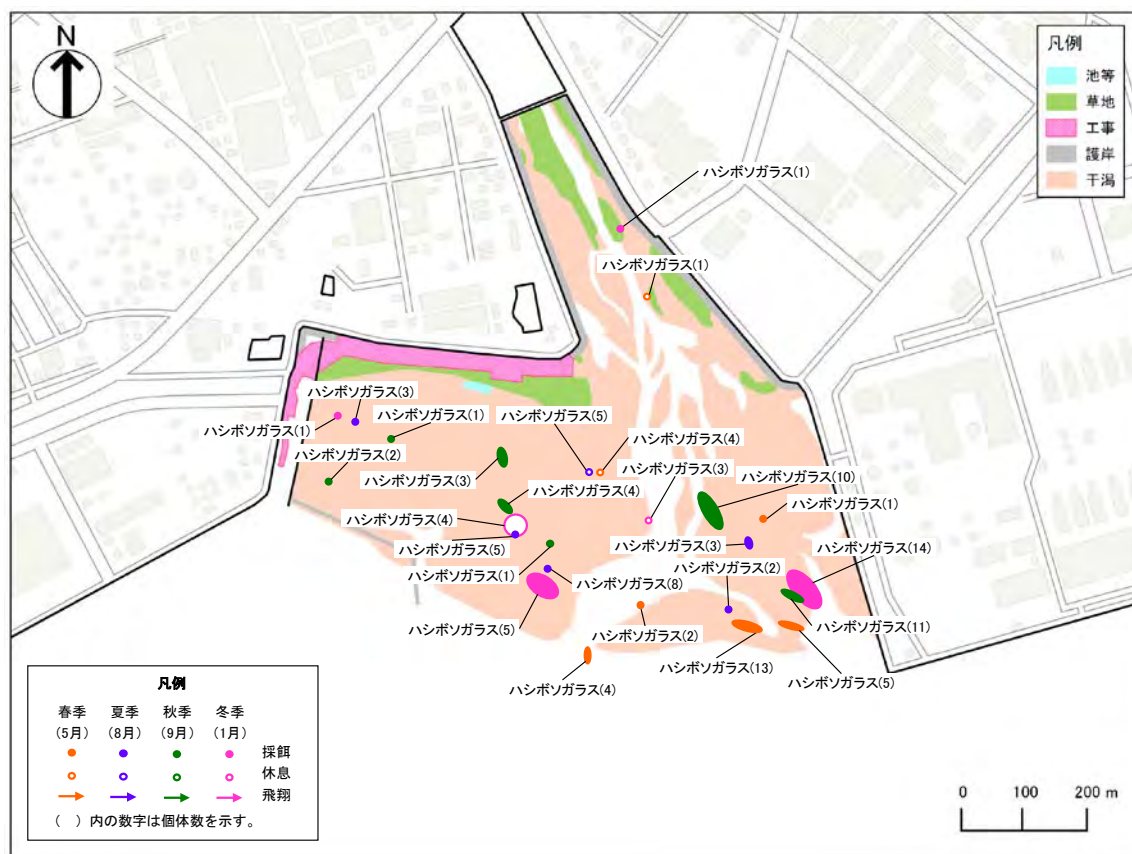
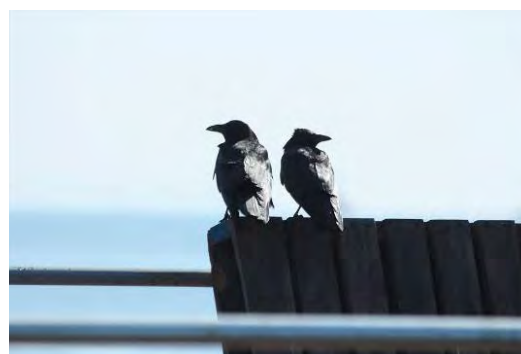


図 2.3.10 ハシボソガラスの出現状況



ハシボソガラス（夏季）



ハシボソガラス（冬季）

2.3.5 重要種の確認状況

重要種の確認状況を表 2.3.13 に示す。

平成 27 年度調査において確認された重要種は、ササゴイ、チュウサギ、イカルチドリ、コチドリ、シロチドリ、ミヤコドリ、タシギ、トウネン、ウミネコ、コアジサシ、ミサゴ、ハヤブサ、オオヨシキリ、セッカ及びベニマシコの 15 種であった。

各種の写真を次頁以降に示す（オオヨシキリ及びベニマシコは写真なし）。なお、各種の生態等は資料編に示す。

表 2.3.13 重要種の確認状況

No.	目	科	種名	注1 渡りの区分	確認状況				注2 天然	注3 希少	注4 環境省 RL	注5 三重県 RDB	注6 近畿RDB
					春季	夏季	秋季	冬季					
1	ペリカン目	サギ科	ササゴイ	夏鳥		1	2					VU	ランク3（繁殖個体群）
2			チュウサギ	留鳥			4				NT	VU	ランク1（夏期滞在個体群）
3	チドリ目	チドリ科	イカルチドリ	留鳥				2				VU	
4			コチドリ	夏鳥	2							NT	ランク3（繁殖個体群）
5			シロチドリ	留鳥	10	1	1	5			VU	CR〔繁殖〕NT〔越冬〕	ランク3（繁殖+越冬個体群）
6			ミヤコドリ	冬鳥				7					
7		シギ科	タシギ	冬鳥				1				NT	ランク3（越冬個体群）
8			トウネン	旅鳥		3	3						ランク3（通過個体群）
9		カモメ科	ウミネコ	留鳥		735	1948	329					要注目種（繁殖個体群）注7
10			コアジサシ	夏鳥	5					II		CR	ランク2（繁殖個体群）
11	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	留鳥		2	2	4			NT	NT〔繁殖〕VU〔越冬〕	ランク3（繁殖+越冬個体群）
12	ハヤブサ目	ハヤブサ科	ハヤブサ	留鳥		1		1		I	VU	CR〔繁殖〕EN〔越冬〕	
13	スズメ目	ヨシキリ科	オオヨシキリ	夏鳥		1							ランク3（繁殖個体群）
14		セッカ科	セッカ	留鳥	1	1	1						ランク3（繁殖+越冬個体群）
15		アトリ科	ベニマシコ	冬鳥				1					ランク3（越冬個体群）
	4目	9科	15種		4 種	8 種	7 種	8 種	0 種	2 種	5 種	9 種	12種

注1. 渡りの区分は以下のとおりである
（渡りの区分は「三重県における鳥類分布・生息に関する調査報告書（農林水産部林業事務局緑化推進課，1987年3月）」を参考に、近年の県内での確認状況を考慮して区分した）
留鳥：一年中見ることが出来る種----- 7 種
夏鳥：繁殖のために渡来する種----- 4 種
冬鳥：越冬のために渡来する種----- 3 種
旅鳥：春秋の渡り期に定期的に渡来する種----- 1 種

注2. 「文化財保護法」（1950年5月30日法律第214号・1950年8月施行）により地域を定めず天然記念物に選定されている種及び亜種を示す。

注3. 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」（1992年6月5日法律第75号・1993年4月施行）において希少野生動植物種に指定されている種及び亜種を示す。
I：国内希少野生動植物種
II：国際希少野生動植物種

注4. 「環境省レッドリスト2015の公表について」（環境省報道発表資料，2015年9月15日）に記載されている種及び亜種を示す。
VU：絶滅危惧I類
NT：準絶滅危惧

注5. 「三重県レッドデータブック2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～」 （三重県農林水産部みどり共生推進課，2015年3月）に記載されている種及び亜種を示す。
CR：絶滅危惧IA類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種。
EN：絶滅危惧IB類：IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高い種。
VU：絶滅危惧種VU：絶滅の危機が増大している種。
NT：準絶滅危惧種（Near Threatened）：存続基盤が脆弱な種。

注6. 「近畿地区・鳥類レッドデータブック-絶滅危惧種判定システムの開発（京都大学学術出版会、山岸哲監修、江崎保男・和田岳編著、2002年）」に記載されている種を示す。
（記載種のうち、三重県におけるランク3以上の種、およびランク4に含まれる要注目種を示した）
ランク1：危機的絶滅危惧。絶滅する可能性がきわめて大きい。
ランク2：絶滅危惧。絶滅する可能性が大きい。
ランク3：準絶滅危惧。絶滅する可能性がある。
要注目種：要注目種:ランク4と判定された種のうち、何らかの擾乱によって一気に絶滅する可能性がある、あるいは全国・世界レベルで絶滅の危険性があるとみなされているもの。

注7. 三重県においては「越冬個体群（ランク4）」とされている。



ササゴイ (秋季)



チュウサギ (秋季)



イカルチドリ (冬季)



コチドリ (春季)



シロチドリ (春季)



ミヤコドリ (冬季)



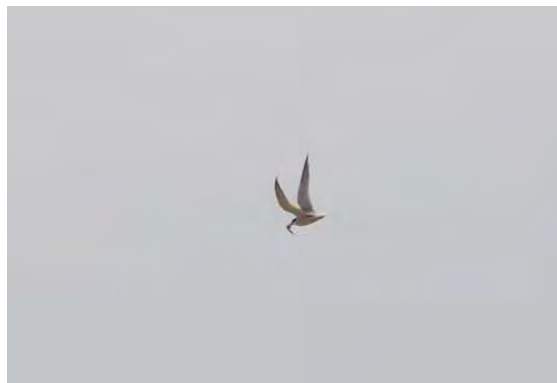
タシギ (冬季)



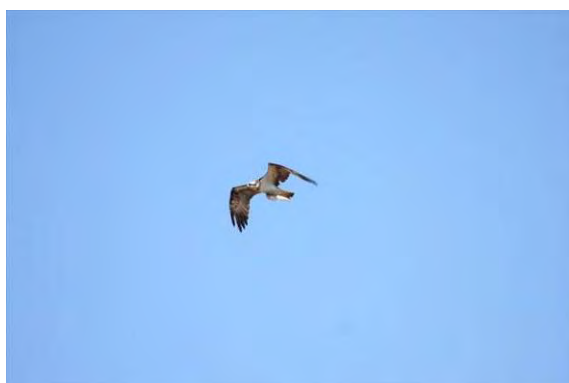
トウネン (夏季)



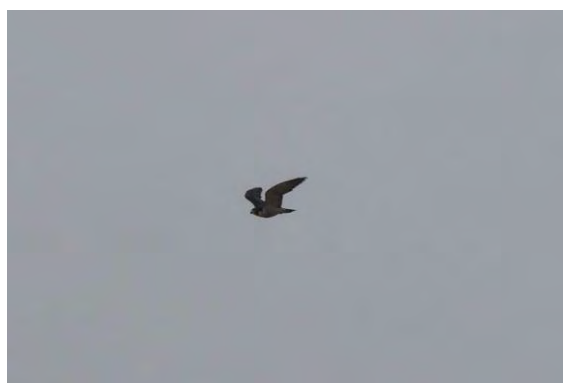
ウミネコ（夏季）



コアジサシ（春季）



ミサゴ（秋季）



ハヤブサ（夏季）



セッカ（秋季）

注．セッカについては平成 24 年度調査時の写真を掲載している。